

九 雜 件

1 中國の治外法権撤廃要求に対する日英提携問題

843 昭和7年1月8日 大養外務大臣より
在英國松平大使、在中国重光公使、
在中國矢野大使館參事官、在奉天森
島總領事代理宛(電報)

大養外務大臣より
在英國松平大使、在中国重光公使、
在中國矢野大使館參事官、在奉天森
島總領事代理宛(電報)

中國の治外法権撤廃要求問題に關し列國の共

回対應方英國より 提議にてシテ

別電 一月八日發大養外務大臣より在英國松平大使、

在中国重光公使、在中国矢野大使館參事官、
在奉天森島總領事代理宛合第四一號

右提議

本省 一月8日發

合第二十八號

西京來電八九二一號(リ譯)、

在本邦英國大使ヨリ一月附公文ヲ以テ別電合第四一號ノ通

申出アリタリ

本件ハ重要ナル問題ナルヲ以テ慎重考慮ノ上回答スル第十九
カ右不取敢

「在支公使宛ニハ別電共ニ南京へ轉報アリタ」

在英大使宛ニハ別電共ニ米、佛、蘭、伊へ轉電アリ度シ」
ト附加ノ事

(別電)

本省 一月8日發

合第四一號

I have the honour to approach Your Excellency with
regard to the question of the abolition of the Treaty
rights of foreigners in China.

2. As Your Excellency is aware, the Chinese Government issued, on December 29th, a Mandate postponing the enforcement of the Mandate and Regulations of May 4th, 1931, whereby the Treaty rights of foreigners in

views of His Majesty's Government, I am instructed by His Majesty's Principal Secretary of State for Foreign Affairs to enquire whether the Japanese Government concur in these views and would be prepared to adopt the procedure suggested above.

844 昭和7年1月23日 拠沢外務大臣より
在英國松平大使、在中国守屋臨時時代
理公使、在中國矢野大使館參事官、
在奉天森島總領事代理宛(電報)

中國の治外法権撤廃要求問題に關する英國

入れての回意回答にてシテ

別電 一月11日發芳沢外務大臣より在英國松平

大使、在中国守屋臨時時代代理公使、在中國矢野

大使館參事官、在奉天森島總領事代理宛合第

件 一七八號

右回答文

本省 一月23日發

4. In communicating to Your Excellency the above
the affected Power may have been able to take.

合第一七七號(極祕)
往電合第二十八號(リ譯)、

一月二十三日英國大使ノ來省ヲ求メ本大臣ヨリ別電第一七八號ノ同日附帝國政府回答ヲ手交セリ其際ノ應答ニ付テハ追電ス

別電ト共ニ英ヨリ米ニ轉電佛蘭伊ニ暗送アリ度
別電ト共ニ支ヨリ南京へ轉報アレ

大臣閣下ノ訓令ニ依リ帝國政府ニ於テ右英國政府ノ見解ニ同意シ且前記方法ヲ採用スルノ用意ヲ有スルヤ否ヤ御問合相成リタル次第致敬承候

帝國政府ハ最近支那ニ於ケル不安定、不統一ノ狀態愈々甚

シク殊ニ中央政府ノ權力各地方ニ徹底セサル結果地方官憲ノ行爲ニ依ル外國人權利侵害事件臨時發生ノ危險甚大ナルモノアリ而シテ右ノ如キ事態ハ支那ニ利害關係多キ日英

其他ノ主要國ニ於テ均シク多大ノ痛痒ヲ感スルモノナルニ顧ミ貴翰御申越ノ英國政府見解ハ甚夕時宜ニ適セルモノト

存スルト共ニ貴翰中ニ提唱セラレタル方法ヲ採用スルコトニ對シ欣然主義上ノ同意ヲ表スル次第二候

就テハ此際至急東京及倫敦ニ於テ日英兩國政府當局間ニ右方法ノ實際ノ適用ニ付意見ノ交換ヲ行フコトト致度尙又其間支那ニ於テ何等カ具体的事件發生セル際ニハ右趣旨ニ基

キ現地ニ於ケル兩國官憲ヲシテ之カ對策ヲ話合ハシムルコトト致度意向ニ有之候條款上ノ次第貴國政府ニ御轉達ノ上

何分ノ義御回示相成度候

(別 電)

本 省 1月23日發

合第一七八號(極祕)

本年一月二日附貴翰第一號ヲ以テ支那ニ於ケル外國人ノ條約上ノ權利ヲ廢棄スルコトヲ定ムル千九百三十一年五月四日附中國政府命令及規則ノ實施延期ニ關スル同年十二月二十九日附同國政府令ノ公布ニ依リ同國中央政府ニ依ル治外法權ノ一方的廢棄ノ直接危險ハ當分除去セラレタルカ如キモ尙各地方官憲ノ行爲ニ依リ隨時事件發生ノ危險アル次第ナル處右後者ノ危險ニ備フル爲メニハ現實ニ權利侵害ヲ蒙リタル國家カ抗議ヲ提出シ且必要ノ防衛手段ニ出ツル外他ノ主要列國ニ於テ共同的態度ヲ執ルコトヲ最善ノ方法トストノ趣旨ノ英國政府ノ見解ヲ御通報相成ルト共ニ英國外務

845 昭和7年1月23日 芳沢外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)
中國の治外法權撤廃要求問題に関する英國提
議には滿州を除外するを適當と英國大使に談
話について

本 省 1月23日發

第一三號(極秘)

往電合第一七七號三關シ

帝國政府回答手交ノ上本大臣ヨリ之ヲ要譯シ聞カセタルニ英國大使ハ善ク了解セル旨述ヘタルニ依リ本大臣ヨリ一日附貴翰中ニ主要列國云々タル處英國側ニテハ日本以外ノ何レノ國ニ同様ノ提議ヲ爲サレタル次第ナリヤト尋ねタルニ同大使ハ承知シ居ラサルニ付本國政府ニ問合セタル上回答スヘキ旨答ヘタリ次イテ本大臣ヨリ我方回答中東京及倫敦ニ於テ意見交換ヲ行フヘキ旨記載シ居ル處右ハ英國側ノ都合次第ニテ兩地何レニテ行フモ宜シキ考ナリ將又意見交換ノ題目トシテハ例へ本件方法適用ノ目的物ヲ裁判及司法警察ニ限ルカ若ハ不當課稅等ニ及ボスカ又ハ適用ノ地域ヲ如何ニスヘキヤ等ノ問題アルヘキ處自分トシテ此ノ際率

846 昭和7年1月24日 芳沢外務大臣より
在英國松平大使宛(電報)
中國の治外法權撤廃要求問題に関する英國と
の提携につきその具体的適用範囲および英國

の真意など探査方指示について

別 電 一月二十四日發芳沢外務大臣より在英國松

平大使宛第一五号

右探査事項

本 省 1月24日發

第一四號(極祕)

往電第一三號ニ關シ

一、支那ニ於ケル列國協調ハ華府會議前後ヨリ次第ニ破綻ヲ

來シ殊ニ日英ノ提携ハ日英同盟ノ廢止後著シク薄弱トナ

リ來レルカ右傾向ハ昭和元年末英國政府カ列國トノ協調

殊ニ我方ノ忠言ヲ顧ミスシテ所謂對支自由政策ヲ聲明シ

タル以來益々顯著トナレル次第ナリ

二、然ルニ我方ニ於テハ夙ニ列國協調殊ニ日英提携復活ノ必

要ヲ認メタル次第ニシテ殊ニ昭和三年内田伯渡歐ノ際同

伯ヲシテ英國當局ニ對シ日英提携シテ對支政策ヲ攻究セ

ムコトヲ提言セシメタルニ英國側ハ主義上日英協調ニ異

議ナキモ同國トシテハ昭和元年末ノ對支新政策聲明ヨリ

離反シ得サルコト及協調ノ方法トシテハ個々ノ具体的問

題ニ付北京ニ於テ絶ヘス隔意ナキ意見ノ交換ヲ爲シ意見

一致セルモノハ同一歩調ニ出ツヘク又同一歩調ニ出ツル

能ハサル場合ニ於テモ一方ノ行動ニ付テハ他方ニ於テ充

分其立場及理由ヲ了解シ得ル如キ狀況ニ置クヘキモノト

スル趣旨ヲ回答セルカ其後ニ於ケル右了解ノ實蹟ヲ見ル

ニ在支兩國公使間ニ意見及情報ノ交換行ハレタルコトア

ルモ兩國協調シテ同一態度ニ出ツル如キハ寧ロ困難ナリ
キ

三、敍上ノ經緯ニ顧ミルニ今同英國側カ法權問題ニ關シ殆ト

無條件的ニ包括的ノ協調ヲ提議シ來リタルハ極メテ顯著

ナル態度ノ變動ニシテ或ハ同國ノ一般對支政策ノ根本的

改革ノ企圖アルニ非スヤトモ思ハルル次第ナル處最近支

那ノ事態カ益々惡化シ來レルニ顧ミ公正妥當ナル列國協

調ノ復活ヲ見ルノ望マシキコト申ス迄モナク殊ニ我方ノ

立場トシテハ滿洲事變等ノ關係ニ顧ミ日支間ノ險惡ナル

現狀ハ差當リ改善ノ見込シク從テ此際列國協調殊ニ日

英提携ヲ昨今ノ新ナル環境ニ應シ出來得ル限リ復活シ之

ヲ我對支政策ニ利用スルハ時宜ニ適スルモノト思考セラ

ルル次第ニシテ我方カ今次英國側提議ニ對シ好意的態度

ヲ示サムトスルモ右考慮ニ基クモノナリ

四、尤モ右英國側申出ニ對スル我方ノ最終的態度ヲ決定セム

カ爲メニハ他ノ關係國側ノ態度等ヲモ見定メ充分慎重ナ

ル考量ヲ要スルコト勿論ニテ現ニ英國側ノ提議ニ係ル方

法ノ如キモ其「アツプリケーション」ニ付種々ノ疑問ア

リ即チ(イ)該方法ヲ適用スヘキ地域中ニハ滿洲ヲモ包含セ

シムヘキヤ(ロ)又右適用ノ目的物ハ裁判及司法警察ニ關スル事件ニ限ルカ又ハ課稅等行政的特權關係ノ問題ニ迄及ホスヘキヤ(ハ)將又右適用ノ手順等ニ付テモ被害國カ抗議スル場合他ノ主要列國ハ當然該抗議ニ參加スヘキヤ又ハ

一々ノ具体的事件發生スルニ從ヒ意見ノ交換ヲ行ヒ右抗議ニ對スル參否ヲ決スヘキヤ及英國公文中ニ所謂抗議以外ノ他ノ「アクション」トハ如何ナル行動ナルヤ或ハ出

(別電)
第一五號(極祕)
本省 1月24日發

別電ト共ニ支、北平、奉天ニ轉電シ支ヨリ南京ニ轉報セシム
別電ト共ニ米、佛、獨、伊、露、白、蘭及壽府聯盟ニ轉電アリ度

五、就テハ右意見交換方ニ關スル我方提議ニ對シ英國側ノ同意アリ次第貴大使ハ「サイモン」外相等ニ面會ノ上冒頭往電第一三號及別電第一五號ノ趣旨ヲ體シテ前記(イ)(ロ)(ハ)ノ各點ニ付話合ヲ行フト共ニ其間夫レトナク英國側カ本件提議ヲナスニ至リタル動機ヲ探リ又更ニ進ンテ英國側ニテハ今次申出ヲ端緒トシテ一般的對支協調迄進マムトスル底意ヲ有スル次第ナルヤ等ノ點ニ付テモ探査ヲ遂ケラレ結果回電アリ度

本件ハ祕密保持方特ニ御留意アリ度

第一五號(極祕)
(イ)本件方法適用地域ニ付英國側ヨリ滿洲除外ノ理由ヲ質問スル場合ニハ今次事變後同地方ハ少ク共過渡的ニ特殊ノ事態存スル次第ニシテ本件ニ付此際同地方ヲ支那本部ト同等ニ取扱フコトハ種々ナル事實上ノ困難アルコト及今次事變後擡頭セル滿洲ノ支那官憲ノ態度ハ穩健ニシテ從來ノ官憲ノ如ク盲目的國權回復從テ排日排外ヲ目的トセサルノミナラス滿洲ヲ以テ内外人安住ノ地タラシメントスル我方ノ希望モ十分反映シ居ルコトト思考スルニ付該官憲ニ依ル外國人權利侵害事件發生ノ危險少カルヘキコト等ヲ以テ可然應酬スルト共ニ此際余り深入シタル論議ヲ避クルコト致度

(口)適用ノ目的物ニ關シ裁判及司法警察ニ付テハ從來各國側

トモ其態度ヲ一ニシ居ルモ課稅、公用負擔及行政警察(例
ヘハ營業取締、營業免許等)ニ關シテハ各國間殊ニ日英ノ
間ニ其觀念及之力措置振ニ付一致セサル點アリ(委細郵
報ス)從テ適用ノ目的物ヲ裁判及司法警察ノミニ限ルニ
於テハ問題ナキモ右以外ニモ及ホストトナル場合ニハ
豫メ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行フコトヲ必要トル次第ナ
リ

(ハ)適用ノ手順等ニ付テハ自由ニ意見ヲ交換セラレ差支ヘナ
シ

847 昭和7年1月29日 芳沢外務大臣より
沢田連盟事務局長宛(電報)

中國の治外法權撤廃要求問題に關し日英協調
の進展を策するは時機を得たものとの松平駐
英大使の意見具申転電について

本省 1月29日発

第一七號
松平大使ヨリ

英宛貴電第一四號拜誦
治外法權問題ニ關シ英國ヨリ協同動作ヲ提議シ來レルニ關
シ快諾ヲ與ヘ進ンテ之ヲ一轉期トシ支那問題ニ付英國トノ
協調ヲ堅ウセントスルノ御趣旨ハ本使ノ衷心贊意ヲ表スル
所ナリ曩ニ本使赴任ノ直前東京及京都ニ於テ當時ノ外務首
(腦)部トノ協議會ノ際日英協調ニ關スル懇談ヲ重ネ赴任後
其趣旨ヲ以テ機會アル毎ニ公私各方面ニ亘リ之力進捗ニ努
カシ居り來リタルカ着任後程ナク労働黨内閣トナリ同内閣
ハ我方ニ對シ好意ヲ示シ居タルニハ相違ナキモ同黨ノ立場
ニ鑑ミ更ニ進ンテ協調ヲ進展セシムルノ態度ニ出テ難キヲ
看取シタリ其間ニ於テモ外務省係官又野ニ下レル「オウス
テンチヤンバーレン」等トハ隨時支那ニ於ケル日英協調ノ
緊要ナルコトニ付熟談シタルカ何レモ主義ニ於テハ之(ヲ)
望ミ居ルモノト感得セラレタルカ又事實ニ於テモ幾分協調
ノ兆ヲ見タルカ
何分ニモ關稅會議ニ於ケル我抜掛ケノ態度上海事件ニ際ス
ル我協調拒否ノ事實ハ未タニ彼等ノ心理ニ殘リ居ル様觀取
セラレタリ而シテ今次滿洲事件突發ノ當初ニ於テハ英國ハ
聯盟擁護ノ立場ヨリ理窟ニ於テ我ニ迫ル如キ態度ヲ執リタ
ト思考ス此點モ豫メ御考量ヲ仰ク

篤ト申入ル積ナリ尙軍縮會議ハ開會後ノ發展ヲ見サレハ
確タル事ハ斷シ難キモ三月末ヨリ三四日間休暇ヲトリテ其
節ハ本使ハ一端歸英ノ積ナルカ尙會議ノ模様ニ依リ本使ノ
繼續滯在ヲ要セサル如キ狀態ナルニ於テハ日英關係目下重
大ナルニ顧ミ隨時許可ヲ得テ歸任當局ト會談スルコト必要
ト思考ス此點モ豫メ御考量ヲ仰ク
在歐各大使(土ヲ除ク)米、支、蘭へ轉電セリ
支ヨリ南京、北平へ轉電アリ度シ

848 昭和7年1月30日 芳沢外務大臣より
在英國沢田臨時代理大使宛(電報)

英國大使が中國の治外法權撤廃要求問題に關
する列国の共同を日本のほか仏、伊、米にも
提議の旨回答について

本省 1月30日発

第一〇號(極祕)

往電第一三號ニ關シ

二十九日英國大使來訪、本件ニ關シ本國政府へ照會シ置キ
タル處返電アリタル趣ヲ以テ英國政府ハ
貴電御訓令ニ付テハ「サイモン」外相近日中當地出張ノ際
九 雜 件

(イ) 佛蘭西、伊太利及米國ニ對シテモ日本ニ對スルト同様ノ
提議ヲナセリ

(ロ) 手續ニ付テハ英國臣民ニ對スルト又日本國臣民ニ對スル
トヲ問ハス支那側ニ於テ Jurisdiction ヲ assume スル計
畫ヲナス場合ニ凡テ之ヲ適用シタキ考ナリ

(ハ) 在本邦英國大使ニ本件方法ノ細目ニ關スル協議ヲ東京ニ
於テ行フ權限ヲ賦與スルモ我方カ倫敦ニ於テ右協議ヲ行

フコトヲ希望スルニ於テハ其レニテモ差支ヘナキ意向ナ
ル旨述ヘタルニ依リ本大臣ヨリ右協議ヲ行フヘキ場所ニ
付テハ考慮ノ上追テ何分ノ儀回答スヘキ旨答ヘ置キタリ
支、奉天、北京ニ轉電シ支ヨリ南京ニ轉報セシム
米、佛、伊、蘭、獨、白、露、壽府聯盟ヘ轉電アリ度

2 滄石鐵道敷設契約問題

849 昭和7年2月25日

在中国矢野大使館參事官より
芳沢外務大臣宛(電報)

国民政府による対日戰費調達のための正太鐵
道を担保とする仏國との新借款交渉について

北平 2月25日後發
本省 2月26日前着

第一〇二號(極秘)
本官發公使宛電報

第六七號

正太鐵道ハ本年二月末日ヲ以テ借款元利全部ノ償還ヲ了ス
ヘキ筈ノ處最近國民政府ハ蔣介石ノ意見ニ基キ對日戰費調
達ノ爲更ニ正太鐵道ヲ擔保トシテ新借款契約ヲ結ヒ佛國ヨ
リ銀二千五百萬元(一說ニハ三千萬元)ヲ借入ルコトニ決
定シ且下支那側ト上海滯在中ナル佛國公使トノ間ニ交渉進
行中ニテ其ノ條件トシテ佛國ハ

(イ) 歐洲大戰以來正太鐵道借款ノ元利ヲ「ペーパー」法ニテ
受ケ取り來レルモノヲ「ゴールド」法ニ換算シ差額累計約

四百萬元ヲ今後ノ正太鐵道收益ヨリ支拂ハシムルコト

(ロ) 滄石鐵道ノ敷設權ヲ佛國ニ委讓スルコト

等ヲ提議シ居ル由(尙新契約ノ正式成立迄ニハ相當時日ヲ
要スル爲差當リ正太原契約期限ハ二月末日ヨリ更ニ六ヶ月
延期サレタリト云フ)ノ處滄石鐵道ノ敷設權ニ關シテハ昭
和四年七月三十一日華昌公司ト滄石鐵道局長トノ間ニ契約
アリ南京政府鐵道部長ノ允諾アルニ拘ハラス
⁽²⁾同年九月二十五日附公文ヲ以テ南京政府ハ我方ニ對シ該契
約ノ無效ヲ通シ來リタルカ同公司ハ契約カ當事者一方ノ意
思ニテ廢棄シ得ヘキモノニアラストシテ依然契約ノ有效ナ
ルコトヲ留保シ居ル關係上今般華昌公司ヨリ前顯滄石鐵道
敷設權ノ委讓ハ明カニ右契約ト抵觸スル次第ナルヲ以テ右
果シテ事實ナラハ佛支交渉條項中ヨリ該敷設權委讓取除キ
方支那側ニ警告アル様申出テタリ

滄石鐵道敷設權ニ付テハ數年前山東ニ在リシ張宗昌ト De
Maltelトノ間ニ一應ノ話アリ張ノ希望ニモ拘ハラス話纏
マラサリシ由又最近正太鐵道ノ職員及株主中頻リニ右鐵道
ノ借款期限更新ト滄石鐵道ノ敷設權獲得ニ關シ運動ヲ試ミ
シ者アリタル由佛公使館員カ本官ニ内話ノ次第モアリ右佛